



2022.3

0. はじめに

少しずつ春の兆しを感じられる昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか？いわゆる「まんぼう」（まん延防止等重点措置）が解除され、少しずつ日常を取り戻しつつありますが、まだまだ油断できない状況ですので、お子様の通学につきましても十分にご配慮いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

3月を迎え、新しい学年の準備も始まりますので、新年度の目標についてお子様と十分にお話くださいますようお願い致します。

1. 2022年度入試 速報

3月末現在の受験結果について、概況をお知らせ致します。共通テストは2年目を迎え、前回以上に、大きく変化して参りました。特にどの科目も文章を読む量が格段に多くなり、短時間で文章を読み解き、考えていく「思考力・判断力・表現力」を問う問題が多くなりました。また、数学の平均点が大きく下がり、全国の受験生の出願先を悩ませました。

本県においても多くの進学校が文理とも平均点を大きく下げましたが、幸いにして本校は、比較的下げ幅が小さく、各自の目標とする進路を大きく変更せずに出願できた生徒が多くを占めました。

また、急激な少子化とコロナ禍の影響が顕著に現れたのも今回の入試の特徴と言えます。首都圏の受験人口（18歳人口）が大きく減少したこと、コロナ禍の拡大で東京周辺の大学への出願が躊躇されたこと、更に共通テストの平均点が大幅に下がったことが複雑に融合し、首都圏の国公立大学・私立大学への出願者数が伸び悩むという結果になりました。そして却って地方国公立大学の人気回復し、数年ぶりに倍率が上がりました。

難関大学への出願も、平均点急落の影響から「超安全志向」と言われる受験傾向に変化し、受験生の流れが掴みづらい年になりました。

結果的には、最後まであきらめず、各自の目標に向かって初志貫徹した生徒達が成功した、と言えると思います。また、10月時点で目標との大きな差を冷静に受け止め、勇気を持って目標変更した生徒もありましたが、結果的に成功につながりました。担任の先生方と保護者の皆様の情報交換が丁寧に行われた結果だと思います。ご協力ありがとうございました。

3月22日時点での受験結果は、右の表の通りですが、国公立大学合格者が130人を超えたのも久しぶりですし、私立大でも明治・法政などのMARCHクラスに昨年の倍以上の合格者を出したことは、生徒達の頑張りが結果として現れたと理解しております。また、難関10大学の中でも、東京工業大学に3／3と全勝したことも特筆できる結果でした。今年度の入試結果は、総合的に良い結果だったと

| 国公立大学  |           | 私立大学     |         |
|--------|-----------|----------|---------|
|        |           | （ ）内は昨年度 |         |
| 合計     | 130 (126) | 早稲田大     | 7 (8)   |
| 難関10大学 |           | 慶応大      | 2 (9)   |
|        | 17 (9)    | 上智大      | 7 (2)   |
| 宇都宮大学  |           | 明治大      | 36 (14) |
|        | 19 (18)   | 法政大      | 38 (15) |
| 埼玉大学   |           | 立教大      | 14 (10) |
|        | 14 (12)   | 青山学院大    | 10 (6)  |

言えると思います。

この3年生は、模擬テスト結果も1学年時から良好で、入学当初から好成績を維持してきました。学校行事や部活動が制限される苦しい高校生活でしたが、大きな笑い声で明るく生活し、仲間作りが上手だった学年だと思います。その絆が、最後の最後に仲間を助ける力になったと感じられました。

受験は団体戦、家族と仲間と学校（先生）の連帯によって、はじめて良好な結果につながると思います。また、ここ3年間の傾向を見ますと、国公立大学合格者のうち90%以上が合格した大学に進学しています。望まない受験ではなく、行きたい大学を目指して全力で取り組むという姿が印象的です。仲間と共に最後までチャレンジするという姿勢が、成功につながりました。

2. 2年生のこの時期

もうすぐ3年生になり、受験が目の前に迫ってきます。「あと1年ある」ではなく「あと1年しかない」、と考えておいた方が良いでしょう。

「知らない道を行くときは、その9割を以て半ばとするべし」、と言われるように高校生にとっては「**未知のゾーン**」に入って行きますので、甘さを捨て、用心深く進んでいく必要があります。そして、大学入試自体も、めまぐるしく変化する世の中や求められる学力に合わせた柔軟な対応が求められる入試に変化しています。

持っている能力の高い本校生徒に望みたいことは、まず、

①やるべき事の優先順位を決めて欲しい。

②易きに流れる弱さを克服して欲しい。

③受験は、合格できる人数の決まった競争であることを理解して欲しい。ということです。

3年生になり、本校の生徒達が受験を通じて悩み苦しみ、最後までものがき、出口の見つからない苦悩を味わいながら、**人生最初の大きな壁**に挑んでいきます。保護者の皆様のご理解とご協力・ご支援を心よりお願い申し上げます。

3. 1年生のこの時期

文理選択が決まり、新しい学年の新クラスに入って、環境も大きく変化していきます。自分で選んだ道を歩み始め、後戻りができません。子供だった自分と決別し、**自分の生き方や人生**を考える時間がグッと増えてきます。教科科目の学習内容にも専門性が要求されるようになり、今までの学習との違いに直面することでしょう。

**2年生は、高校生活で最も多忙で、最も充実した時間を過ごせる学年**です。部活動の中心として活躍しながら、将来を考え、少しずつ準備していく段階です。「何とかなる」という考えではなく、「何とかしてみせる」という**気概**で、乗り切って欲しいと思います。

学習への取り組みが不十分にならないよう、部活動との両立を目指して全力で青春のひとつきを走り抜けて欲しいと思います。保護者の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

4. 最後に

毎回申し上げておりますが、大学合格のために学ぶのではなく、自分の将来をよりよく生きるために学んで欲しい。そして、16歳から18歳の一度しかない青春の時期に、**思い切り何かに打ち込んで欲しい**。ものがき苦しき、悩むことは大変ですが、そこからしか学べない大切なものを手にすることでしょう。部活動と受験の両輪をフル回転させて夢を実現できる、そんな進路指導を目指して参ります。保護者の皆様とともに、生徒達を支援して参りたいと思います。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

進路指導部